

26日 金曜

マルコ



しよう。また何よりも、イエス様の十字架のときはまだ先のことだったからです。イエス様は弟子たちに神の国の真理を教える必要があったのです。それはこの世の価値観とは全く違うことです。

「だれが一番偉いか」ということがこの世の価値観であり、それによって仕事も人間関係も政治も国際関係も動いています。またそれによって争いが生まれます。しかし神が人々の救いのためにご自身、徹底的に謙ってくださったのなら、そのようないいような「だれが一番偉い」などという価値観は、恥ずかしいようなものです。

弟子たちはそれが分らずに、論じ合っていました。イエス様はそれを正されました。私たちも人と比べて上か下かとうような、または偉いかどうか、さらには強いかなどという価値観から解放されましょう。それが心を乱す原因でもあるのです。また神様のすばらしさを見失う原因でもあるのです。

9:30 さて、一行はそこを去り、ガリラヤを通って行った。イエスは、人に知られたくないと思われた。

9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて「人の子は人々の手に引き渡され、殺される。しかし、殺されて三日後によみがえる」と言うとおられたからである。

9:32 しかし、弟子たちにはこのことが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れていた。

9:33 一行はカペナウムに着いた。イエスは家に入ってから、弟子たちにお尋ねになった。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」

9:34 彼らは黙っていた。来る途中、だれが一番偉いか論じ合っていたからである。

9:35 イエスは腰を下ろすと、十二人を呼んで言われた。「だれでも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後ろになり、皆に仕える者になりなさい。」

9:36 それから、イエスは一人の子どもの手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱いて彼らに言われた。

9:37 「だれでも、このような子どもたちの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、だれでもわたしを受け入れる人は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」

イエス様は、弟子たちがよく理解しないままでもガリラヤや地域の人々と話し、ご自身の受難のことが広まることをよしとされませんでした。ガリラヤは弟子たちの出身地であって知り合いも多かったからで

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

